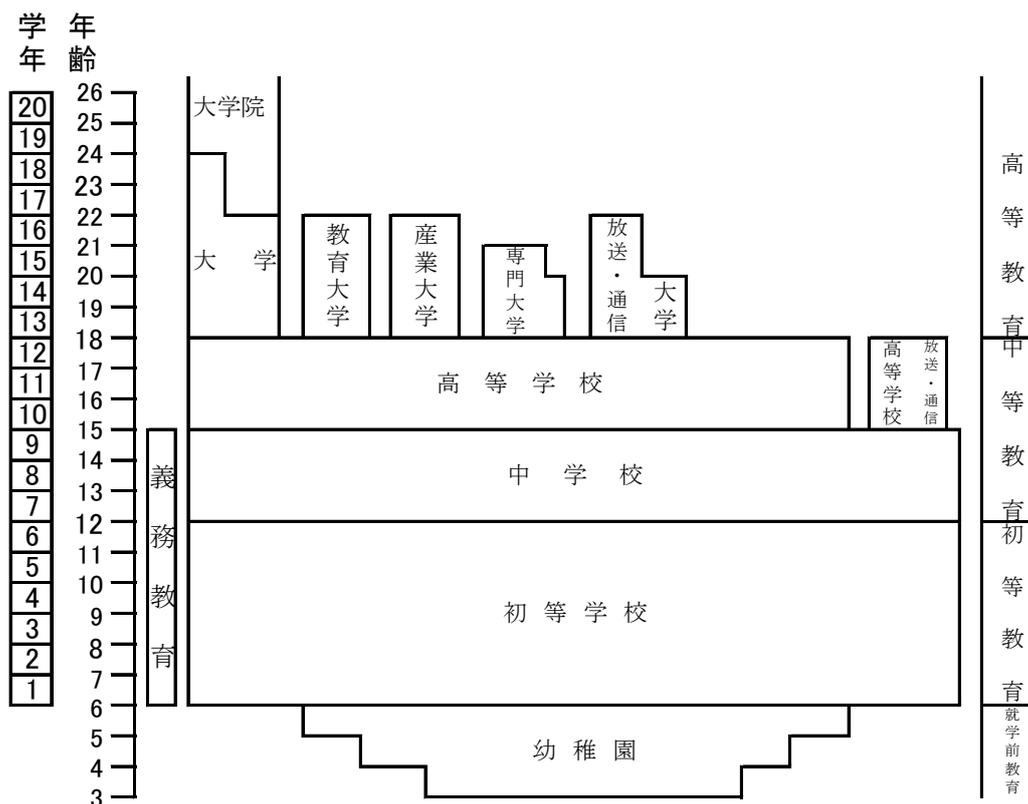


韓国の大学入試制度とわが国への示唆

林 篤裕 (大学入試センター 研究開発部)

1 教育制度の概要および進学率

1.1 学校系統図¹⁾



1.2 進学率 (フルタイム)²⁾

中学 ===[99.3%]===> 高校 ===[98.8%]===> 大学

1.3 社会背景

高い進学率：受験競争、塾、予備校、家庭教師

厳しい学歴偏重社会

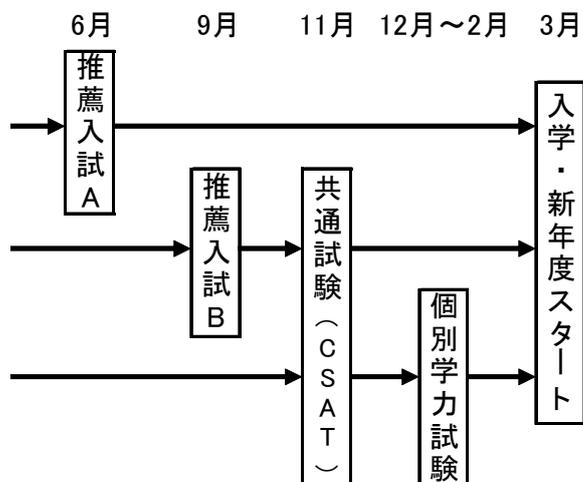
入試が国家的行事として実施されている。

多くのものがソウル近郊に集中：人口(4725万人)の45%が首都圏に。大学や企業も。

※ 教育制度とは直接関係ないが、男性には20代の間兵役にいく義務があり、修学の問題にもなっている。

2 大学入試制度の概要

2.1 入試の流れ



※ 推薦入試 A: 共通試験の成績を利用しない推薦入試

※ 推薦入試 B: 共通試験の成績を資格試験的に利用して合否を決定する推薦入試

2.2 共通試験

2.2.1 概要

修学能力試験(College Scholastic Ability Test, CSAT)

年に1回11月に1日間で実施される。追試験・再試験は実施されない。

受験者数: 57.4万人(2004年)、内訳 現役 41.1万人、浪人 16.3万人。7対3。

全大学(386大学、2003年時)で採用されている。

実施運営機関: 教育課程評価院(Korea Institute of Curriculum & Evaluation, KICE)

2.2.2 出題教科・科目

7つの領域に合計で48科目が実施されている。5コマ。初出問題のみで構成されている。

言語(韓国語)(1)、数理(2)、社会探求(11)、科学探求(8)、職業探求(17)、外国語(英語)(1)、
第2外国語/漢文(8)の7領域。カッコ内はその領域内の科目数。

7領域の中から進学を希望する大学に必要な科目を受験する。英語は必須領域。

第2外国語/漢文領域の受験者は全体の21%程度。これ以外の4コマ全てを受験した者は86%程度(2005年)。

高校のカリキュラムに副った学力試験である。

大学教育に足る能力を受験者が有しているかを測定することを目的としている。

試験問題は試験後に公表され、再利用されることはない。

国語(韓国語)と英語にはリスニングテストが実施されている(1994年から)。

回答方式はマークシート式だが、数学のごく一部に記述式がある。この記述式問題の採点は、任命された大学の教員が指定された方針にしたがって期間内に分担して担当する。

表 1. CSAT-2005 の科目(2004 年 11 月実施)

試験領域	科目数	科 目
言語	1	韓国語(含聞き取り問題)
数理	2	A型, B型
社会探求	11	経済, 経済地理, 国史, 法と社会, 社会文化, 世界史, 世界地理, 倫理, 政治, 韓国近・現代史, 韓国地理
科学探求	8	物理I, 物理II, 生物I, 生物II, 化学I, 化学II, 地球科学I, 地球科学II
職業探求	17	会計原理, 海洋一般, 海事一般, プログラミング, コンピュータ一般, 情報技術基礎, 人間発達, 食品と栄養, 水産一般, 水産・海運情報処理, 商業経済, デザイン一般, 農業情報管理, 農業理解, 農業基礎技術, 基礎製図, 工業入門
外国語	1	英語(含聞き取り問題)
第2外国語/ 漢文	8	フランス語, 中国語, 日本語, アラビア語, スペイン語, ロシア語, ドイツ語, 漢文

表 2. CSAT-2005 の時間割 (2004 年 11 月実施)

試験領域	試験時間	設問数	素点	備 考
言語	8:40~10:10 (90分)	60	200	聞き取り問題 : 6問
数理	10:40~12:20 (100分)	30	200	非選択型質問項目を30%程度出題
社会探求/ 科学探求/ 職業探求	13:20~15:20 (120分) [30分/科目]	20/科目	100/科目	最大4科目を選択
外国語	15:50~17:00 (70分)	50	200	聞き取り問題 : 17問
第2外国語/ 漢文	17:30~18:10 (40分)	30	100	進学希望大学によっては受験の必要がある試験領域

2.2.3 試験の実施場所, 実施責任者

市道教育庁が定める高等学校。ひと教室当り 28 人程度(2005 年)。

高校に委託して実施しているため、高等学校長が責任者となって実施する。

試験問題冊子の受取りや搬送、および実施後のマークシートの提出は高等学校側の分担。

2.2.4 問題作成の方針・特徴

KICE が委託した問題作成委員(大学の教授。高校の教員も一部参加している)が作成する。

試験問題の最終決定までの過程で、チェック委員会のチェックを何回か受ける。

機密保持のため、1 ヶ月程で作題から検討、印刷、実施までの工程を網羅する。

2.2.5 試験結果の開示

試験終了後 1 ヶ月程で、本人に成績を通知する。また、大学は全資料を CD で受け取り、個人特定 ID で検索して利用する。KICE が提供する成績としては、素点以外に標準化得点(いわゆる偏差値)、パーセンタイル、および "Stanine"(Standard Nine をもじって)と呼ばれる 9 等級の成績、の計 4 種類の指標であり、受験者本人への提供情報も同様である。

各大学は成績の評価方法を事前に公表しているため、受験者は通知された成績を基に、最終的な進学希望大学・学部を決定する。

2.3 個別試験

主に筆記試験以外を行っている。小論文、実技、面接等。

可否の評価資料としては CSAT の成績以外に、高校の調査書(内申書)が重視される。

他に推薦入試も実施されており、その比重が増している。

3 最近の動向とわが国への示唆

教育制度が比較的短期間に改定

現在のものは第 7 次のカリキュラム改革に対応して実施されたもの。

総合試験型(2003 年まで)から科目別試験型(2004 年以降)へ。高校のカリキュラム準拠へ。

学力の担保に寄与：

共通試験を全大学で利用(私立も含めて)

英語(実質 4 コマ)が必須

推薦入試にも利用

内申書の重視(信頼関係)。毎年の経験から大学側に蓄積ができる。

推薦入試：増加傾向。現状で 4 割程度。2 回の内の 1 回は CSAT を資格試験的利用。

1 コマ複数科目受験：社会探求領域(11 科目)／科学探求領域(同 8)／職業探求領域(同 17)

進学希望学部によって選択科目が類型化：1 日で実施するためにも

筆記試験は基本的に共通試験のみで実施され、個別試験は筆記試験以外を実施。

聞き取り試験(リスニング・テスト)は校内放送設備を用いて実施：韓国語(自国語)、英語

追試験・再試験は実施されていない。年に 1 回、1 日間のみ(11 月中旬)。

参考文献：

1) 文部科学省(2004), 中央教育審議会第 22 回配付資料, 学校教育制度に関する基礎資料,

7. 諸外国の学校系統図,

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/gijiroku/001/04053101/007.htm.

2) 文部科学省「教育指標の国際比較」(平成 18 年版)(2005),

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/03/06032718.htm.

3) 櫻井 捷海・浅野 攝郎(2004), 「2003 年度韓国大学修学能力試験問題(日本語訳)」, 『平成 15 年度 所長裁量経費報告書』.

4) 林 篤裕・浅野 攝郎・山村 滋・荒牧 草平(2005), 「2005 年度韓国大学修学能力試験(CSAT-2005)試験問題(日本語訳)」, 『平成 16 年度 所長裁量経費「韓国における大学修学能力試験の動向調査」報告書』.

5) 林 篤裕・浅野 攝郎・山村 滋(2006), 「2005 年度韓国大学修学能力試験(CSAT-2005)試験問題(日本語訳)(その 2)」, 『平成 17 年度 所長裁量経費「韓国における大学修学能力試験 CSAT-2005 の動向調査」報告書』.

6) 大学入試センター(2002), 国際シンポジウム「問題作成からみる大学入試」予稿集.

7) Yang-Rak Lee(2003), KICE 配布資料.

8) 海外職業訓練協会(2006), 各国・地域情報—アジア—韓国—教育事情,

<http://www.ovta.or.jp/info/asia/korea/04education.html>.